

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

学校番号：23011

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇「わかる・できる・楽しい」が実感できる場面があり、好きな授業があると答えている児童が多い。</p> <p>◇ノートやワークシートに自分の考えを表現することが得意な児童は多い。</p> <p>◇ICT機器を、授業の導入や探求場面に活用できた。</p>
	<p>◇自分で疑問やめあてをもって、学習の取り組みもうとしていると答えた児童は学年が上がるにつれて減ってきている。主体的な学びを意識した授業づくり、個に応じた課題を明確にした授業づくりが必要である。</p> <p>◇「書くこと」が得意な児童は多いが、それを全体場で表現することがなかなかできない児童もいる。そのため、今後もICT機器を生かすなどの手立てを考え、発表や交流しやすい場をつくっていく。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇協働的に学ぶことのよさを感じている子が非常に少ない。自分と友達の考えを比較して新しい価値を生み出すことを意識した授業を構築していく必要がある。</p> <p>具体的には、協働探究の場を生かし、交流や考えを共有する場面をつくっていく。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
考えを表現し、「伝えあう」「学びあう」力	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>◇日常の授業改善から一人一人の「子どものよさ（個別最適な学び）」「集団のよさ（協働的な学び）」を引き出す教師の関わり。</p> <p>→子どもが動き出すためのイントロダクションの工夫や交流が深まる教師の関わりを意識。</p> <p>◇一人一授業、一研修の実施。→学んだことを各学級で実践する。</p>
取組	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>◇よりよい学級にするための学級活動の充実</p> <p>→係活動で自己肯定感・自己有用感を育む 高学年での委員会活動に繋げる。</p> <p>◇全校でのあいさつ運動の実施</p> <p>◇本物の経験に触れ合うために現地学習、出前授業の充実</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
	<p>○ICTを生かして交流が深まる教師の関わり。</p> <p>→オクリンクプラス等のツールを活用し、学び合いしやすい場や環境づくりに努める</p> <p>○デジタルドリル・教材の活用</p>



